

令和5年度 上田市立塩尻小学校 学校自己評価シート (10月中間報告)

学校教育目標	めざす子どもの姿 (中期的目標)		総合評価			
(1)思いやりのある子供 (やさしさ) (2)じょうぶな子供 (たくましさ) (3)よく考える子供 (かしこさ) (4)最後までやりぬく 子供 (ねばり強さ)	(1) 人の気持ちがわかり、思いやりのある言動がとれる子供 (2) 生活リズムを整え、病気やけがに気をつけて生活できる子供 (3) 進んで学習に取り組み、自分の考えを表現しようとする子供 (4) 本気で取り組み、粘り強くやり抜く子供		新型コロナウイルスによる活動制限がなくなったことで、学習活動の幅が広がり、精一杯活動に取り組む姿がたくさん見られるようになってきた。一方で、児童の体力の低下や児童同士の休み時間や授業中の関わりが増えたことに戸惑いを感じている児童達もいる。児童の意識や実態を捉え、学校行事や授業内容の工夫を行っていききたい。			
	今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策	
	自分の『思い』や『考え』を 深められる学びの創造	1	支え合う学級づくり	・学年を越えて一緒に考えたり活動したりする場面が増え、子ども達は協働する活動の良さを感じられている。一方、気持ちのすれ違いによるトラブルも起きている。 ・自分から進んで挨拶できる児童が少ない。	B	・学年を越えた活動や学級活動の一層の充実を図り、互いの違いや良さを認め折り合いをつけられる力をつけていく。 ・児童同士や地域の方との触れ合いの機会を増やし、挨拶の垣根を低くしていきたい。
		2	学び合う授業づくり	ねらいを明確にした授業、振り返りに取り組んでいる。授業の準備や話し合いのルールなどが十分身につけていない児童がいる。	B	話し合いのルールを身につけていくため、学級会や道徳を中心に学び合いを繰り返し行っていく。
3		高め合う活動づくり	小規模校の良さを生かして学年を越えた交流活動に取り組んできた。また、地域講師などをクラブや生活・総合的な学習で活用し、学びの充実に努めている。	A	学年を越えた交流活動や地域など外部の人から学ぶ機会をこれからも大事にして、子ども達の学びの充実を図っていく。	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	支え合う学級	あいさつの充実	児童会の挨拶運動を中心に、来校者や地域の中でも進んであいさつする子供を増やせたか。	児童会の朝のあいさつ活動を毎日継続している。多くの児童が元気に挨拶を返すことができる。自分からの挨拶がまだ少ない。	B	児童会活動を継続していくとともに、学年を越えた交流、地域の方に学校へ足を運んでもらう機会を増やしていくことで、垣根を低くしていきたい。
		認め合う関係づくり	自分と友達との違いや良さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てるために、力を合わせて取り組んだり、課題を解決したりする経験を増やす活動場面や場づくりを進めたりすることができたか。	なかよし週間の活動を通して、友の良さに目を向けたり、自分が友や学級のために何ができるか考えたりすることができた。友と課題を解決していく力が課題。	B	日常の学級活動で、友と話し合い、折り合いをつけながら、より良い解決策を考えていく活動を繰り返し行うことを大切にしていきたい。
		児童把握と個に応じた支援	Q-U検査やアンケートで児童の状況や実態を把握し、必要に応じて個別の指導計画を作成しながら全職員で連携して支援にあたることができたか。	Q-Uの結果を用いて、グループ検討を行い、具体的な支援の見通しがもてた。支援の経過や結果の見直しも必要。	B	支援の経過を確認しながら、教師間での連携を取り合い、児童の様子について共通理解して指導にあたるようにする。
	学び合う授業	共に学びあうための構えをつくる	仲間と共に深める学習に向けて、はっきり話す、話し手を見て最後まで話を聞く姿勢を大切に指導することができたか。	低学年を中心に丁寧な指導を心がけている。最後まで話をよく聞く姿勢に課題がある。	B	聞く場面、話す場面のメリハリを大切にされた授業の工夫、話を聞く時のルールを定着させていきたい。
自律して学ぶ力づくり		「つむぐ」等を活用し家庭学習の定着を図り、発達段階に応じて自主学習に	「つむぐ」の記入時間を日課に位置付け、翌日	B	低高学年会で、自主学習の取り組みせ方を	

			取り組めるよう指導支援できたか。	の授業内容や家庭学習を確認させることで、家庭学習にもよく取り組んでいる児童が多い。自主学習のやり方が課題。		検討していく。
		「できた」「分かった」と実感できる授業	子供たちが自ら追究していくためのねらいや学習課題、ねらいにそった見返しや定着を設定できたか。	授業のねらいを明確にし、授業の見返しを大事にしてきた。振り返りを次の授業や活動につなげていく必要がある。	B	授業や行事後の見返しでは、自己の変容や新たな課題について自ら振り返ることができるように、振り返らせ方をさらに工夫していきたい。
高め合う活動	自主性が伸びる活動づくり	個に応じた適切なめあてを設定し、目標に向けて粘り強く取り組む姿勢を指導・支援することができたか。		学年ごとのねらいを持ちながら指導にあたる事ができた。学級担任と特別支援担当職員、その他の支援員と連携を取りながら、個の児童への支援を進めているが、チームでの個に応じた適切な支援については課題が残る。	B	引き続き複数の職員で連携していく。特に支援が必要な児童については、個別の支援計画を職員が共有し、児童の課題を共通理解しながら、指導にあたっていきたい。
	児童による協働の学び	異学年との交流の場を設定し、互いの良さ、協働することのよさを実感できる活動づくりができたか。		運動会合同競技や異学年混合グループでの児童会フェス参加などを実施してきた。高学年が進んで年下の児童を支え、楽しそうに活動に取り組む姿が見られた。	A	引き続き、交流清掃や交流会など、日常の中でもともに学び合える活動を工夫していく。
	地域との学び	地域資源（人材・題材等）を活かして、クラブ活動・生活科・総合的な学習を構想し取り組むことができたか。		クラブ活動の講座数を増やし、地域講師と協力して運営してきた。ゆうすげの里では、1、2年の生活科で、自然に触れる校外学習を支援していただいた。	A	子ども達の思いや疑問を、学習活動に生かしていけるよう、地域支援コーディネーターやPTAと連携して幅広い地域の人材を確保していく。
学校運営	地域との連携	情報の発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページ等を通して、学校での児童の学びを保護者や地域へ発信することができたか。	学校長の方針や、学校の取り組みの様子が伝わるように、掲載記事を工夫し、おたよりを定期的に発信してきた。また、学校へ行こう週間を実施し、地域の方から評価をいただけた。	A	後期も、子ども達の学びの姿をHPやおたよりで定期的に発信していく。学校教育目標を具現している子ども達の姿などを捉えて発信していきたい。
		PTAや地域の方々との連携	PTAや地域の方々との連携し、学校行事等の様々な活動を充実させることができたか。	朝の活動の時間に、有志の保護者の方々に、本の読み聞かせ活動をしていただいた。また、クラブ活動では地域講師と、活動の充実を図ることができた。PTAの活動をさらに充実させていくことが課題。	B	子ども達の学びの場の充実をPTAとさらに考え進めていきたい。また、子ども達の学校での姿を地域の方に評価していただき、子ども達のやる気につなげていきたい。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できた D・・・達成できなかった